

第4回市民協働推進計画策定懇談会（概要）

■ 日 時

平成18年6月20日（火） 午後3時00分～午後5時00分

■ 会 場

宇都宮市中央生涯学習センター 2階 205会議室

■ 出席者

懇談会委員：大竹委員，大矢委員，加藤委員，佐々木委員，島田委員，原沢委員，三宅委員，山中委員，若林委員，渡部委員

事務局：自治振興部長，自治振興部次長，みんなでまちづくり課長，地区行政課長，みんなでまちづくり課長補佐，市民活動係長，地域づくり係長，地区行政推進係長，事務局職員

■ 会議経過

1 開会

2 報告事項

- (1) 宇都宮市地区行政推進計画について
- (2) 第3回市民協働推進計画策定懇談会議事録について
- (3) 市民協働シンポジウムの報告について

3 議事

- (1) 具体的な取組みについて

<委員からの主な意見・質問等(要旨)>

A委員：資料5の成果目標は抽象的な表現が多く，数値化されていないので，ターゲットとして絞りづらいのではないかと。例えば出前講座などは，講座数をいくつ増やすなど目標値を設定したらどうか。

事務局：目標を数値化したほうがチェックしやすいが，職員の資質を高めるなど，量ではなく質で図るものもある。成果目標については，数値を目標に取り入れられるかを含めて，再度検討していきたい。

B委員：地域のまちづくり組織は，単位自治会長などから構成されているので，意識の醸成や人材育成するために，出前講座を単位自治会で実施したらどうか。

C委員：まちづくり組織は各種地域団体で構成されている。各自治会において出前講座を実施するのは大変だと思うが，行政側は実施できるのか。また，人材育成については，各種地域団体の責任において行うべきだと考える。既に自治会では，公園の花植えや清掃など協働のまちづくりに取り組んでいると思う。

事務局：地域まちづくり組織の構成員は，自治会などに限定していない。出前講座については，各部各課において実施されているので，できるだけ多くの市民に

活用していただきたい。また、インターネットなどで出前講座の情報を提供し、多くの方が利用できる環境を作っていきたいと考えている。

A委員：成果目標について、民間では、目標を数値化するのが普通である。数をこなすことではなく、評価する姿勢が重要である。

C委員：このような計画を作ったのだから、職員の異動や引継ぎの際の連絡不足を徹底して改善して欲しい。

D委員：2つの取組みにおける関係課において、全庁全課と入っているのは良いことだと思う。取組みにおける関係課についてだが、学校教育課が「活動場所の確保」に入っているのは良いと思うが、「情報の発信、共有」においても、学校教育課で取り組めないか。また、「情報の共有」に出前講座実施課が入っているが、「情報の交流」に入っていないのは何故か。

事務局：23の取組みの関係課の標記については、この取組みを直接的に行う課を明記しており、二次的な取組みについては、全庁全課で実施する。よって、情報の共有化における取組みにおいても、この取組みを活用し、教育に関する情報を提供や収集を進めていく。また、「情報の共有」における出前講座実施課は、「情報の交流」の関係課の間違いであるので、訂正させていただく。

C委員：「情報化拠点整備」は、地区市民センター、地域コミュニティセンターにOA器機を配備していくとなっているが、地域コミュニティセンターにおいては、人員配置の関係などを考えると難しいと思う。

事務局：地域コミュニティセンターについては、みんなでまちづくり課の職員を派遣、巡回させるなど人的支援での対応を考えていきたい。

E委員：他の部署に対して取組みをお願いするようなイメージがあるが、実効性の高い計画とするために、全庁的な推進体制は考えているのか。また、資料4の「(仮称)市民協働推進計画のこれまでのとりまとめ」の1ページ「この計画の背景と必要性」の部分は、取組み⑧の「市民協働の啓発」の目的における市民協働の必要性と関連しているのか。⑭の「市民の意見を反映できる仕組み」については、大変重要な取り組みと認識しているので、期待したいと思うが、その反面不安もある。「(仮称)市民協働推進計画のこれまでのとりまとめ」の1ページ「計画の背景」における社会変動についても、もっと具体的に少子高齢化や財政難などについて書くべきだと思う。

事務局：全庁的な体制についてだが、市役所の機構は、分野別ごとに分かれており、その総合調整を政策審議室で行い、全体の計画をとりまとめている。市役所のこれからの業務は、各個別計画だけにおいて推進するのではなく、全体を総合調整しながら、進めていかななくてはならないので、みんなでまちづくり課の業務も各分野多岐に渡ることから、総合調整して進めなくてはならないと考えている。そのことを踏まえながら、この計画も進めていきたい。また、背景における記載については、市民協働の背景なのか、この計画の背景なのか、混同している箇所があるので、整理する。社会的背景についても同様に整理する。

(2) 計画の推進にあたって

＜委員からの主な意見・質問等(要旨)＞

E委員：資料5の④の取組みにおいても、第三者評価についてなど同一の表現で記載したほうが良いと思う。

事務局：表現を統一する。

A委員：第三者評価を実施した結果については、次回の協働事業に生かすなどの記載を入れたほうが良いと思う。

事務局：体制の部分では、P（計画）D（実施）C（評価）A（改善）のAのサイクルが見えてないので、計画の本文の部分で、次年度の取組みに反映できるような内容を記載する。

B委員：協働のカイドブックには、協働事例は盛り込むのか。また、市民へは全戸配布するのか。

事務局：現在、職員向けのガイドブックを作成しており、協働事例についても情報を収集しているので、ガイドブックで紹介したいと考えている。市民向けのガイドブックは、リーフレットとして平成19年度を目途に作成していきたい。また、ホームページや広報紙を活用して市民を対象にした啓発を進めていきたい。

F委員：行政計画においてこの市民協働計画が位置づけられているが、その部分が明確になっていないので、理解が難しい。また、成果目標の内容については、達成が難しいと思うので、努力目標的なものとして、具体的に記載できる部分は記載し、出来ない部分はそのままが良いと思う。また、行政計画は、計画を多方面から検討しているので、資料が多くなりがちであるので、分かり易くして欲しい。市民のほとんどが「市民協働」を知らないなので、その部分を原点として押さえながら、気長に実施して行って欲しい。

G委員：主役である市民が計画に見えてこない。市民への周知が最も必要であり、④の取組みが重要であると考え。市民協働への気持ちを持つというのは、地域に愛着を持つ気持ちがないと難しい。このまちをなんとかしようとか、自治会に参加しようという気持ちがなかなか起きづらい。私ぐらいの年代がまちづくりのためになんとかしようという気持ちが希薄であるので、この年代をいかに巻き込んでいくか、起動力という部分で必要になってくるので、その部分についての記載をお願いしたいと思う。

4 その他

- ・次回会議の日程
- ・パブリックコメントの実施について